

平成25年年度老人保健事業推進費等補助金事業実施計画(概要)

事業名

食(栄養)および口腔機能に着目した加齢症候群の概念の確立と介護予防(虚弱化予防)から要介護状態に至る口腔ケアの包括的対策の構築に関する研究

事業実施目的

虚弱の可能性が高まる後期高齢者が激増する中で、高齢者における「食べる力」あるいは「食の安定性」が一層重要となってくる。したがって、加齢性筋肉減少症(サルコペニア)や虚弱化が顕在化する前段階からの虚弱化を予防し、介護予防から終末期に至るまでの適切な栄養の摂取と口腔ケアのあり方について、学際的視点から科学的知見を総合評価し、その予防対策を包括的な形で明らかにすることが重要である。

本調査事業では、口腔機能や栄養状態を中核とする食習慣を含む食環境の悪化から始まる身体機能の低下とサルコペニア、さらには最終的に生活機能障害と虚弱の発生、そして要介護状態から終末期に至る構造的な流れ(フロー)を、4つの段階に分けて分類し、高齢者の包括的な「食」に着目した視点から再考し、それを維持するために口腔・栄養・運動・社会科学の4分野を中心とした多領域の活動を通して早期から終末期までの有効性を検討することにより、介護予防から終末期の口腔ケアまでの連続的対応を有する包括的手法を開発し、国民運動に引き上げることを目的とする。

事業実施予定期間

平成25年5月1日から平成26年3月31日まで

事業内容

虚弱の可能性が高まる後期高齢者が激増する中で、高齢者における「食べる力」あるいは「食の安定性」が一層重要となってくる。したがって、加齢性筋肉減少症(サルコペニア)や虚弱化が顕在化する前段階からの虚弱化を予防し、介護予防から終末期に至るまでの適切な栄養の摂取と口腔ケアのあり方について、学際的視点から科学的知見を総合評価し、その予防対策を包括的な形で明らかにすることが重要である。

本調査事業では、口腔機能や栄養状態を中核とする食習慣を含む食環境の悪化から始まる身体機能の低下とサルコペニア、さらには最終的に生活機能障害と虚弱の発生、そして要介護状態から終末期に至る構造的な流れ(フロー)を、4つの段階に分けて分類し、高齢者の包括的な「食」に着目した視点から再考し、それを維持するために口腔・栄養・運動・社会科学の4分野を中心とした多領域の活動を通して早期から終末期までの有効性を検討することにより、介護予防から終末期の口腔ケアまでの連続的対応を有する包括的手法を開発し、国民運動に引き上げることを目的とする。

事業の効果及び活用方法

1. 虚弱高齢者、要介護高齢者だけでなく、自立高齢者も含めて高齢者全体における口腔・栄養を基盤とする食習慣の関係が明確になり、食の安定性を入り口とした虚弱予防の概念がより精緻に構築される。
2. 食(栄養)および口腔機能に着目した虚弱への段階的進行(フロー)の概念が整理され、医科・歯科をはじめ、介護・栄養等多くの領域で共通概念での活動が可能となる。
3. 多領域の活動を通して、新たな国民運動の展開が期待される。
4. 虚弱高齢者発生を早期に抑制し、有効な介護予防が可能となる。

食の加齢症候群

フェーズ①

- 不健康な食環境
- 食欲減退出現



- 基礎疾患・多剤服薬
(歯周病)
- ストレス(うつ)
- ライフイベント
- 社会的要因
(経済・地域交流)

フェーズ②

- 食の虚弱化
- 低栄養の徴候



- 食事内容の脆弱化
- 義歯不適合・咬合不全
- 運動器の低下
(プレサルコペニア)

フェーズ③

- 食の老年症候群
- 生活機能低下



- 低栄養
(Aib低下、免疫低下)
- 口腔機能低下
(咀嚼・嚥下障害)
- 骨格筋肉量の低下
(サルコペニア)
- 認知機能低下

フェーズ④

- 要介護状態



- QOL低下
- 誤飲・誤嚥性肺炎
- 経口摂取困難
- 長期臥床

効果的スクリーニング法の確立
(レーダーチャート方式)

早期介入の有効性の検証

今回の老人保健事業にて検証